

安全報告書



2010

伊勢鉄道株式会社

1 お客様はじめ地元の皆様へ

いつも伊勢鉄道をご利用戴くとともに、当社の業務運営にご理解・ご支援を賜り、誠に有難う御座います。

2009年10月、鈴鹿で3年振りとなる「F1日本グランプリ」が開催されました。F1は全国から多くの観戦客が集中する一大イベントであり、当社にとりましてもその対応、特に「安全輸送の完遂」は年度目標の大きな柱でもありましたが、お陰を持ちまして無事故で完遂できました。また、2009年度全体でも安全目標に掲げる事故や大規模な災害の発生は無く、無事故を継続しております。

鉄道会社にとって「安全」は会社存続の基盤であります。反面、「無事故が続くと安全意識は低下する」との仮説もあり、平穩時ほど安全の確保に細心の注意を払わなければなりません。当社の安全管理体制の推進に自らが積極的に関与しつつ、今後とも伊勢鉄道が「安全で安心できる鉄道」として多くのお客様にご利用戴けますよう全社員が一丸となって努力を続けて参ります。

本報告書は、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について自ら振り返るとともに、広くご理解戴く為に2007年度から公表しているものです。皆様からの積極的なご意見をお待ちしております。

伊勢鉄道株式会社

代表取締役社長 森井修治

2 基本方針と安全目標

(1) 基本方針

安全輸送の確保は経営の根幹であり、「安全基本方針」を次のように掲げ、社長以下全社員に周知・徹底しております。

- ①全社員一丸となって輸送の安全の確保に努める。
- ②輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正なる業務執行に徹する。
- ③確認の励行に徹し、疑わしい時は最も安全と思われる取扱いを行う。
- ④事故・災害等が発生した時は、列車防護、人命救助を最優先に行動し、情報連絡を確実に行う。
- ⑤常に問題意識をもち、必要な変革を行う。

(2)安全目標

当社は「安全基本方針」を受けた「安全基本計画」及び「輸送安全目標」を定めると共に、目標を達成するための年度毎の具体的な取り組みを定めた「安全重点実施計画」を策定して日々安全確保に取り組んでいます。2009年度は定量的な目標はクリアし、基本動作の確実な実施や教育・訓練の充実等、全社員の安全意識の更なる向上に努めています。

(2006年度～2010年度)

区 分	項 目	内 容
定量的な目標	列車事故 (衝突・脱線・火災)	乗客の死傷を伴う事故を 5年間発生させない。
	人身障害事故	5年間、発生させない。
	インシデント	5年間、発生させない。
定性的な目標	基本動作の確実な実施と 事故防止意欲の向上	



3 事故等の発生状況と再発防止措置<2009年度>

(1)鉄道運転事故(「鉄道事故等報告規則」に規定する事故)

鉄道運転事故の発生はありませんでした。

今後とも引き続き発生防止に全力で取り組んでまいります。

(2)輸送障害(30分以上の遅延や運休)

9月、河芸～中瀬古間での車両故障、河原田駅では案内の不手際に伴うお客様対応による遅れが発生しました。10月には台風18号の接近に伴う暴風雨により、始発から夕方まで列車の運転を見合せたほか、12月には河原田駅で車両故障が発生するなど、2009年度は4件の列車遅れや運休が発生し、お客様にご不便をお掛けしました。



(3) インシデント(鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態)
インシデントの発生はありませんでした。

(4) 行政指導等

国土交通省からの行政指導はありませんでした。

4 輸送の安全確保のための取組み

(1) 重点安全施策(安全関連投資)

2009年度は、車両の改良更新(2両:ATS-PT型車上装置新設、運転状況記録装置新設等)、三軒屋踏切他2箇所の踏切改良等の各工事を行ったほか、ATS地上子・車両液体変速機等の取替や、車両の重要部検査(1両)等の工事を実施し、当初計画していた同年度の安全・安定輸送設備の改良工事は、全て計画通り完了しています。



ATS-PT 型車上装置



液体変速機取替工事

2010年度も、車両の改良更新(2両:ATS-PT型車上装置新設、運転状況記録装置新設等)、通信ケーブル取替え等の安全関連工事を計画しており、今後とも安全の維持・向上に向け、各種設備の整備・改良に積極的に取り組んで参ります。



車両の重要部検査



軌道検測車による検測

(2) 人材教育

当社では、安全目標を確実に達成するための「重点実施計画」を定め、駅（運転指令業務）、機関区（運転士）、工務区等の関係部署が年間計画を策定し、毎月（乗務員・工務関係社員）及び四半期（駅関係社員）毎に訓練会・勉強会を開催して能力・意識の向上を図っています。



また、国土交通省や中部鉄道協会、(社)日本鉄道運転協会・日本鉄道施設協会等の主催で開催される、安全管理や専門的な知識・技能の向上を目指す研修会等にも積極的に参加し、社員のスキル向上に努めています。

(3) 緊急時対応訓練

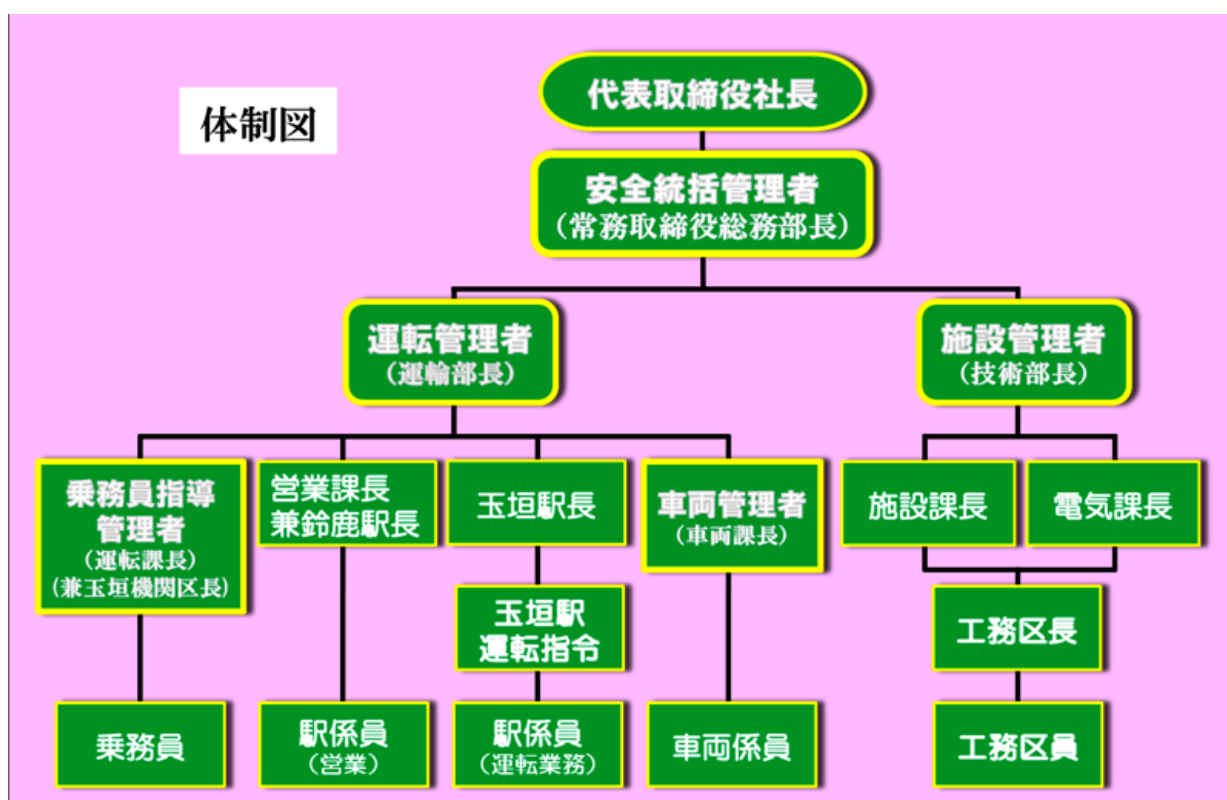
毎年1回、JR東海と合同で、運転事故や災害等の異常時を想定した訓練を実施しています。

2009年度は32名が参加し、列車が運転途中で運転不能となった場合、並びに複線区間の駅で出発信号機が故障した場合を想定し、実際に救援列車を設定しての知識・技能の習得、補助制御盤による信号の取扱いや、会社間にまたがった情報連絡方等の訓練を実施し、異常時対応能力の向上を図りました。



5 当社の安全管理体制

社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の責務を明確にしております。また、毎月一回、安全対策会議を開催し「事故の芽を摘む」意識で、過去事例の検証や、「事故のたね」である「ヒヤっとした・ハッとした」出来事の記録を活用し、現状の問題点の抽出・改善策等を話し合い、安全度の更なる向上に努めています。



役職・役割

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
車 両 管 理 者	運転管理者の指揮の下、車両に関する事項を管理する。
施 設 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。

6 お客様や地元の皆様との連携とお願い

(1) お客様からのご意見

より安全で信頼される鉄道をつくるため、当社ホームページへのメールや電話等によりお寄せ頂いたご意見を役立てております。お気軽に下記連絡先までご意見をお寄せ下さい。

(2) 沿線にお住まいの皆様へ

安全な列車運行を行うためには鉄道施設の工事がが必要です。

極力、ご迷惑をおかけしないよう努めておりますが、工事による騒音や振動でご不便をおかけすることもあるかと思えます。何卒、ご理解とご協力をお願い致します。

(3) 列車妨害防止のお願い

2009年度、線路上への置石等による列車妨害事故は1件発生しました。以前に比べ、件数は減少しつつありますが、高速列車が走行する線路敷地内への侵入・いたずらは、列車との触車死亡事故や列車脱線事故にも直結する非常に危険な行為でありますので、線路付近で遊んでいる児童等を見かけられましたら、線路内へは決して立ち入らないよう、引き続き注意・指導をお願い致します。



交通安全啓発活動

7 ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取組みに対するご意見をお寄せ下さい。

伊勢鉄道株式会社

TEL 059 - 383 - 2112
(FAX も同番号)

E-mail: anzen@isetetu.co.jp